

平成 27 年度「第 51 回全県花だんコンクール」審査講評

加 藤 健

花を育み街に潤いと安らぎを与えてくれる「全県花だんコンクール」は今年で第 51 回を迎えました。この運動に参加されました学校・地域・職場・家庭の方々に対し、心から感謝申し上げます。

今年の初夏は猛暑が続き降雨も少なく、花だんづくりにはその管理に大変苦勞されたことと思いますが、皆様の熱心な管理と栽培、技術によって美しい花だんがたくさんみられました。皆様のご努力に対し心から敬意を表します。

それぞれ巡回先で話し合った審査員の感想・意見を要約し、ご報告申し上げます。

1 設計について

花だん設計は、周りの環境との調和を考えるとともに、花の持っている特性を生かしたデザインに花色・草丈・開花期に配慮して、その花の持っている良さを発揮するように工夫された跡が見られました。花だんの形状は、皆んなのアイデアを取り入れ曲線・波状・円形・方形・立体構造・境栽花だんなど単純にならないように工夫して表現したい。

2 花の種類と選択について

花だんに用いられる草花は、その環境条件に適合した品種を選びます。日向性、半日向性、多湿性、乾燥性など様々な性質がありますが、その特性に適合した草花を選定します。

ただ長年、同じ場所に同じ種類を植えると生理障害を起こしますので、出来るだけ連作を避けるようにしてほしい。特にペチュニア・インパチェンス・日日草などにその徴候が見られますから、設計の段階でよく検討してほしい。

3 管理について

夏、花だんの草花を晩秋まで咲かせ続けるには、灌水や除草など大変な努力が必要です。色鮮やかに咲かせ続ける花だんには、良質の土壌があります。良い土は、水はけと通気性が良く、有機質肥料を含み、石灰または若土石灰などで中和して、植物が好む弱酸性にすることです。

また、咲き終わった花はこまめに摘み取り、枯れ花やしおれた花をつけておくと見た目に悪だけでなく、種をつけてしまい、株の勢いが衰えてしまうのを防ぐためです。そこで花がらを摘む時は、花弁だけでなく必ず子房ごと摘み取るようにします。

また、7月下旬頃高温障害を受け、草姿が乱れますので、いったん枝や茎を短く切り戻し、花にも休養期間を与えるようにしたいと思います。

・まとめ

年々花づくりの技術が向上し、素晴らしい花だんが多く見受けられるようになりました。『郷土をみんなで花いっぱいにして』を合言葉で進めてきたこの運動が、人々に感動と喜びを与え、コミュニティに温かい触れ合いを生み、地域の連帯を深めることになり、美しい郷土づくりができると思います。

この一年間の皆様の熱意とご苦勞に対し感謝するとともに、今後とも尚一層の花いっぱいの輪が広がり発展することをお願い報告と致します。